

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成 17 年 12 月 22 日 (2005.12.22)

【公表番号】特表 2004-531364 (P2004-531364A)

【公表日】平成 16 年 10 月 14 日 (2004.10.14)

【年通号数】公開・登録公報 2004-040

【出願番号】特願 2002-558905 (P2002-558905)

【国際特許分類第 7 版】

B 0 5 D 7/24

C 0 8 G 18/38

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/00

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 183/02

C 0 9 D 183/08

C 0 9 D 183/14

【F I】

B 0 5 D 7/24 3 0 2 T

B 0 5 D 7/24 3 0 2 Y

C 0 8 G 18/38 Z

C 0 9 D 1/00

C 0 9 D 5/00 D

C 0 9 D 175/04

C 0 9 D 183/02

C 0 9 D 183/08

C 0 9 D 183/14

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 1 月 12 日 (2005.1.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも二コート構造を含んで成る保護コーティングであって、第一コーティングはアルコキシシリル含有 2 成分ポリウレタン接着促進剤（プライマー）から成り、第二コーティングは有機もしくは無機コーティング又は有機 - 無機複合コーティングから成ることを特徴とする保護コーティング。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 9】

従って、本発明の保護コーティングは、本発明に基づいてコートされた基材に対する極めて高い保護効果と極めて良好な耐候性（もしくは風雨安定性）との理想的な組み合わせを有する。

以下に、本発明の主な態様を示す。

1.

少なくとも二コート構造を含んで成る保護コーティングであって、第一コーティングはアルコキシシリル含有2成分ポリウレタン接着促進剤（プライマー）から成り、第二コーティングは有機もしくは無機コーティング又は有機・無機複合コーティングから成ることを特徴とする保護コーティング。

2.

第一コーティングは、

I) 2.5 ~ 5.0 の平均 NCO 官能価と 8 ~ 27 重量 % のイソシアネート含有量を有する少なくとも一種の有機ポリイソシアネート (B) と

一般式 (I) : $Q - Z - SiX_aY_{3-a}$

[但し、

Q は、イソシアネート反応性基、好ましくは OH、SH もしくは NHR_1 、ここで、 R_1 は、 $C_1 \sim C_{12}$ のアルキル基、 $C_6 \sim C_{20}$ のアリール基もしくは $-Z-SiX_aY_{3-a}$ 、であり、

Z は、直鎖状もしくは分枝状 $C_1 \sim C_{12}$ のアルキレン基、好ましくは直鎖状もしくは分枝状 $C_1 \sim C_4$ のアルキレン基であり、

X は、加水分解性基、好ましくは $C_1 \sim C_4$ のアルコキシ基であり、

Y は、同じでも異なってもよい $C_1 \sim C_4$ のアルキル基であり、

a は、1 ~ 3 の整数である。]

の少なくとも一種のイソシアネート反応性基を有するアルコキシシラン (C)

との付加物を含んで成る硬化成分 (A)、並びに

II) イソシアネート反応性膜形成樹脂 (D)

を含んで成る2成分ポリウレタン接着促進剤であることを特徴とする上記1に記載の保護コーティング。

3.

第二コーティングは、無機コーティング又は有機・無機複合コーティングから成ることを特徴とする上記1に記載の保護コーティング。

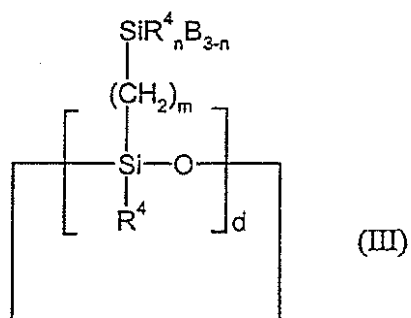
4.

無機コーティングは、有機変性無機コーティングであることを特徴とする上記3に記載の保護コーティング。

5.

有機変性コーティングは、一般式 (III)

【化2】



[但し、

R^4 は、 $C_1 \sim C_{18}$ のアルキル基及び/もしくは $C_6 \sim C_{20}$ のアリール基であり、 R^4 は、分子内で同じでも異なってもよく、

B は、OH 基、 $C_1 \sim C_4$ のアルコキシ基、 $C_6 \sim C_{20}$ のアリールオキシ基、 $C_1 \sim C_6$ のアシルオキシ基から選択される基であり、好ましくは OH 基、メトキシ基もしくはエトキシ基であり、

d は、3 ～ 6 であり、

n は、0 ～ 2 であり、

m は、2 ～ 6 である。]

の少なくとも一種の多官能性、環状カーボシロキサン

及び / 又はその (部分的) 縮合生成物

を含んで成ることを特徴とする上記 4 に記載の保護コーティング。

6 .

第一工程で、アルコキシシリル含有 2 成分ポリウレタン接着促進剤 (プライマー) を、
第二工程で、有機もしくは無機コーティング又は有機 - 無機複合コーティングを基材に適
用し、必要であれば、更なる工程で第三コーティングを適用することを特徴とする上記 1
に記載の保護コーティングの製造方法。

7 .

基材は、ポリマー基材、金属基材又はガラス基材の群から選択されることを特徴とする
上記 6 に記載の製造方法。

8 .

ポリマー基材は、ポリカーボネート、ポリメチルメタクリレート、ポリスチレン、ポリ
塩化ビニル、ポリビニルシクロヘキサン及びそれらのコポリマー、ポリアミド、ABS 又
はそれらのブレンドであることを特徴とする上記 6 に記載の製造方法。

9 .

コートされた基材を、機械的な損傷及び / もしくは放射線による損傷及び / もしくは汚
損から保護するための上記 1 に記載の保護コーティングの使用。

10 .

上記 1 ～ 6 のいずれかに記載の少なくとも一つの保護コーティングを有して成る基材。